

兵庫県南あわじ市の事例にみる

自治体オリジナル

『コアカリキュラム』開発プロジェクト

『コアカリキュラム』のねらい

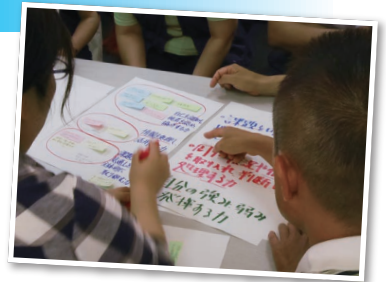
- 南あわじ市の未来を担う人材として求める
資質・能力を育成する市町村「統一」カリキュラム
・地域の伝統芸能『淡路人形浄瑠璃』を題材とする
・「南あわじっ子につけたい力」に基づき、重点育成
資質・能力を設定、義務教育年間で系統的に育む
- 「学び」そして「学び方」のモデルとなるような『コアカリキュラム』とする
・各学年約10時限(生活科・総合的な学習の時間など)
・アクティブ・ラーニング型で単元を構成
・市内の全教員が『コアカリキュラム』を実施することで刺激を受け、授業づくり
を工夫し、各教科も含めた日常の授業が変わっていく授業変革もねらいとした

南あわじ市の『コアカリキュラム』開発ステップ

ステップ 1 市がめざす子ども像の策定

南あわじ市の教育指針「南あわじっ子につけたい力」をもとに、めざす子ども像を、義務教育修了段階の中学3年生の具体的な姿で話し合った。

各校から、**管理職と次代を担う研究主任(『コアカリキュラム』開発推進メンバー)**がペアで参加。**市内の教員が一堂に会して話し合う**ことで、めざす子ども像、めざす『コアカリキュラム』の共通理解を図った。



ステップ 2 重点育成資質・能力の設定

「南あわじっ子につけたい力」に含まれる具体的な資質・能力を洗い出し、分類し、重点育成資質・能力として設定した。

各学年で、それぞれの資質・能力を発揮している児童・生徒の姿を言語化し、9年間の達成レベルを策定した。

ここで重要となるのが、「一貫」と「系統」の視点。学年ごとに資質・能力のレベルを話し合い、全体で段階的に育まれていくよう調整していく。この縦と横の検討を重ね、『コアカリキュラム』をくみ上げていった。

- ポイント 1** 資質・能力を評価するルーブリック
資質・能力の育成を評価し、また、児童・生徒の目標となるルーブリックを設定。達成目標を明確化することで、市内の『コアカリキュラム』の平準化(授業評価)も可能に。
- ポイント 2** 教務主任が参加する開発研修
実際の教育課程で実施するための鍵は、教務主任。カリキュラム開発研修に参加することで、『コアカリキュラム』がめざす理念を共有するだけでなく、教務主任の意識も変える!

資質・能力の系統表
3つの資質・能力について9年間の達成レベルを描く。

	ア) 互いの強み弱みを認め合い、チームとして高めあう力	イ) 周りの状況からよみとったり、自ら収集したりした情報を処理し、活用する力	ウ) 課題を明確に把握し見直しをもって主体的に取り組む力
中1	協働活動に意思をもって参画し、現状を客観的に観察・分析する	自ら進んで課題を見つけ、解決に必要な情報を、適切な選択により収集し、話し合い、導き出した結論について表現を工夫してまとめ・発表をする	課題に適した情報の収集・分析により、課題に対する解決案を策定する
小6	自分の役割を理解し、役割を認識して協働活動に参画する	目的や視点に応じた適切な調べ方を選択して情報収集し、調べ、検討を通して、事実と意見を明確にまとめ発表する	課題を多面的にとらえ、解決のための考え(手だてや手順)を適切な手法で選択し、よりよい解決案を見出す

ステップ 3 単元一覧表を作成

世界に誇る伝統芸能である『淡路人形浄瑠璃』をリソースにした各学年の単元を開発。主に総合的な学習の時間で実施することから、地域のヒト・モノ・コトを各学年で効果的にいかした探究的な学びとなるよう単元を設計した。また、9年間の内容に重なりがないように、何度も検討を重ねた。

単元一覧表
重点育成資質・能力を育成する各学年の単元計画。

中3 「南あわじ市の伝統芸能を世界へ発信」	
タイトル	南あわじ市の伝統芸能を世界へ発信しようプロジェクト
学習内容	南あわじ市の伝統芸能の魅力を世界に発信する
単元で探究する発問	地域の継承・発展を考えることは、自分にとってどのような意味と価値があるのか?
成果物	南あわじの伝統芸能についての英語のPR動画
9年間の達成レベル	ア) 協働活動の意味と価値や、お互いの特性を理解し、目的に応じて最適な連携により最大の効果を発揮してチームの力を高める イ) これまでの課題についての情報処理・活用手法を検証し、多面的な分析と他者との建設的な議論により、新たな仮説や結論を導き出し、条件に応じて適切に提案・発信する ウ) 課題に対する解決案の検証結果から、実効性のある解決案を策定し、具体的な実現を目指す

ステップ 4 各授業の指導案と評価計画、教材を作成

アクティブ・ラーニング型の授業として、指導案と教材を作成。「何を教えるのか」だけでなく、「何のため(どの資質・能力を育成するため)」に「どのような学習活動を位置づけるのか」を設計して授業を開発した。

- ポイント 3** 検証授業実施を通じた改訂・最終化
2019年度は、市内全学校の小学1、3、5年、中学1年が授業実施。開発推進メンバーは授業見学と分析会を行い、改訂研修会を経て、最終化した。